



# バイリンガル子育ての ヒント

## vol.4

### 「好き」の力

「好きこそ物の上手なれ」と言いますが、子供が日本に興味を持ち日本を「好き」であり続けることが、バイリンガル教育の成功には不可欠です。このお手伝いをするのが、子供の「日本語の先生」である親の大事な仕事の1つと言ってもいいでしょう。

すもうや柔道、季節の行事等、日本の伝統文化に興味を持たせるのもいいでしょう。また日本の童謡や絵本でもいいし、しまじろやアンパンマンでも構いません。年齢に応じて、ポケモンだったり、プリキュアだったり、Legoやドラマでもいいでしょう。とにかく日本のもので、「大好き」と言える物が常にあること。これが日本語の学習意欲に繋がります。

です。そうすることで、まず子供がどんな内容、どんな言葉を見聞きしているのか把握できます。不適切と思えば、適切なものを見聞きするように促せます。親子と一緒に「はまる」ことで親子の絆も深まり、子供もその音楽や本、ドラマを一度好きになります。繰り返し聞いたり見たりしているうちに、子供の方からわからない言葉の意味を聞いてきたり、これは知らないだろうなと思ったり、親がそれとなく教えてあげたりして、子供に自然に日本語を教えるチャンスが生まれます。

芽生えます。日本の友達のお家を訪ねて自分が好きな本があれば、楽しい会話のきっかけになるでしょう。

日本語力は日本語教室だけで身につくわけではないのです。大好きな歌や本、ドラマを通して身につく日本語力もばかになりません。AKB48の歌でさえ、上手く使えば教育効果抜群です。骨の名前を教えたいなら、「ほねほねワルツ」、野菜の名前を覚えさせたいなら、「野菜シスターズ」、勇気を出して困難に立ち向かうことの大切さを教えたいなら、「ラッキーセブン」などなど。これらの歌詞やビデオは恋愛とは一切関係なく、小さい子供に見せても問題なしです。皆さんもお子さんと一緒に、日本の「好き」を探してみてください。



宮崎 直子

津田塾大学英文科卒、イリノイ大学アジア研究科(日本語教育、言語学専攻)修士課程卒。ことば+カルチャー (kotobaandculture.com) 代表。

